東京教区時報

第１０５８号
2007年１１月２５日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人　伊藤裕元

WEB:http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL:comm.tko@nskk.org
Phone:03-3433-0987, Fax:03-3433-8678 Diocese Office

立教大学に在学中、チャプレンの一人は竹田鐵三神父であった。聖ヨハネ修士会の修道士で、生涯独身だったが型破りの神父である。それで同じシンプでも親父と書いたほうがよさそうだと言われた。いつのまにか学生は「ファーザーたけだ」と呼ぶようになっていた。それがやがて短縮されて「ファー竹」となったのである。

父が偶然同じ１９０１年生まれの丑年だったから、まるで自分の親父だと思ってファーザー、ファーザーと慕っていたのである。ファーたけもチャペルのオルガン弾きであったこのわたくしを、わが子のように可愛がってくださったものである。

《恵みに生かされて》

ファーたけの風貌

司祭　澤　邦　介

ファーたけは、実に和服の似合う人であった。着流しの着物に下駄をひっかけて蕎麦屋やイッパイ呑み屋の暖簾をくぐっていたファーたけの風貌を今でも目の前にはっきりと思い出せる。お得意の俳句や、名文や面白いお話など、すっと思い浮かばないが、50年以上たってもあのファーたけの風貌だけは忘れない。

こんなに風貌が心に焼き付いた人も珍しい。なぜか。ファーたけは、一つの喜びの中でいつもダメ人間の自分を隠さなかったからだと思う。大きな喜びとはキリストの福音だと言っていい。神出鬼没のファーザーまたどこかであいましょう。（退職・前ナザレ修女会・榛名在住）

《掲載記事の転用可（事前連絡要）》

◇**堅信受領**

11月11日　東京聖マルチン教会
▽東江静也（マルチン）

◆**とこしえの平安**

11月4日　尾崎　透（86）　千住
11月8日　河合　貴美（91）　聖マーガレット
11月15日　遠藤　榮子（96）　真光
11月16日　城　きみよ（92）　千住
11月17日　矢崎美江子（81）　小金井
（故矢崎健一司祭夫人）
11月18日　髙間舘　光（62）　聖ヨハネ

▽**東京聖三一教会ムービーナイト**　11月30日（金）17時から、クリスマスをテーマにした『天使の贈り物』を上映。解説は作家・東理夫。入場無料。照会TEL 03（３４２１）３６４６。

▽**ＢＳＡ定期総会**　日本聖徒アンデレ同胞会の感謝礼拝・入会式・再宣誓式とともに12月１日（土）14時、林間聖バルナバ教会（横浜教区）で開かれる。

▽**横浜教区浦安伝道所講演会**　クリスマスによせて「子供たちの幸せのために」、講師・修道士マヌエル・エルナンデス（イエズス会教誨師）。12月１日（土）15時～16時半、浦安市民プラザＷＡＶＥ101。照会TEL０４７（３５４）２５１６。

今週・来週の予定

11月25日～12月8日

２５（日）聖霊降臨後最終主日・キリストによる回復（降臨節前主日）
城南Ｇ教会協議会（聖オルバン）
山手Ｇ教会協議会（聖マーガレット）
下町Ｇ教会協議会（聖ヨハネ）
光の礼拝（主教座）
２６（月）多摩Ｇ牧師協議会（小金井）
２９（木）信仰と生活委員会
３０（金）城南Ｇ牧師協議会（聖オルバン）
公開説教（主教座）
信徒講座［講師・鈴木剛子］
１２月
２（日）降臨節第１主日
主教巡回　目白聖公会
３（月）礼拝音楽委員会
４（火）教財務サービス委員会
６（木）主教座聖堂活動委員会
人権委員会（聖バルナバ）
エルサレム教区協働委員会
７（金）広報委員会

常置委員会報告（11月13日）

＊聖職候補生志願者と面接し、志願受理妥当と答申した。
＊聖職試験の公開説教（30日）実施のほか、10月主教会では08年ランベス会議の諸事項への取り組み、日本聖公会総会（08年5月）、聖公会神学院校長の件などを協議、との主教報告。
＊主日聖餐式応援調整と、ナザレ修女会デイリーマス司式者につき他教区の協働、教区ＨＰリニューアルオープン、10月末の教区財務状況、ソウル教区来日団歓迎の件など、主教チャプレン、各主事報告を了承。
＊次期各常設委員長及び専門委員長を諮問通り了承。
＊他教区に議席を持つ宣教師の教区会議席取扱いを協議。
＊その他

ソウル教区来日団の日程

今週27日に来日する、野宿者支援タシソギセンター所長・イム（林永寅）司祭、信徒５人（内男性３人）の訪日メンバーは、12月１日までの５日間、きぼうのいえ・まりや食堂（浅草）のほか、ＮＰＯエスエスエス、有限会社ビッグイシューその他の自立・生活支援活動団体や滝乃川学園などを見学、施設関係者と懇談する。そのほかオウルリムの会、信仰と生活委員会ともソウル訪問以来の交流をはかる。

なおイム司祭は同伴者帰国後も１人残り、２日に浅草聖ヨハネ教会で主日礼拝出席（兼日曜給食活動参加）、そのあと大阪へ向う（中村淳・卓志雄聖職候補生同行）。聖公会生野センター及び呉光現主事の世話により関西在の韓国教役者・大阪教区教役者らと種々の交流、カトリック本田哲郎神父との面談、施設見学などさらに２泊３日を過ごし、４日に関西空港から帰国の途につく。

▽立教女学院の降臨節第１主日唱詠晩祷　12月２日（日）16時、同院聖マーガレット礼拝堂で聖公会の伝統的な夕べの礼拝。メッセージ＝佐々木道人司祭、Or・指揮＝岩崎真実子、奉唱＝同礼拝堂聖歌隊・藤の会フェスティバルクワイヤー07。照会℡03（５３７０）３０３８。

【学びと働きから】64

10月教役者会での学び

教役者会では現在いくつかの学びのテーマを持っていますが、その中に「こどもの陪餐」があります。10月30日に開催された教役者会の講師にカトリック御受難修道会の國井健宏神父（元上智大学教授・典礼学）をお迎えし、こどもの陪餐におけるローマ教会の諸事情、特に「初聖体の式」についてお話を聞くことができました。ローマ教会においても入信儀礼では洗礼、堅信を経て、聖餐を受けることは聖公会と同様ですが、同時に「分別のわかる年齢」（７歳～10歳）になったこどもたちが、堅信前にゆるしの秘跡の後初聖体の式に与り陪餐が認められています。根拠として「こども達を妨げてはならない」という聖書のイエスの言葉（マタイ19・14）、また、聖体を「霊的な食べ物」とし、これを食して成長しやがて堅信を受けるという考え方に基づいています。問題点としては①聖奠理解としては無理がある②堅信の位置づけが曖昧になることがあげられました。

今回の学びから、こどもの陪餐ひとつについても初代教会から中世、現代まで、時代や地域によって考え方も取り扱い方も一様ではなく、また変化してきていることが確認できました。

また、ローマ教会も刷新を模索しているようでした。

幹事　執事　須賀義和
（東京聖三一教会・聖十字教会牧師補）

《今、この教会では…》

立教学院諸聖徒礼拝堂

当礼拝堂には多くの青年が集っている。平均年齢は日本聖公会一若いだろう。週平均16回以上の礼拝と４回の聖研が行われ、曜日を問わず会館には青年たちが溢れている。もちろん集うのは信徒ではなく、信仰を求める人々でもない。しかし、音楽やボランティア、さまざまな活動を切り口にキリスト教と出会い、祈ることを知り、社会とは違った価値観を生きる世界があることを体験する青年たちがここにいるのは事実だ。彼らを支える大人たち、見守ってくれる信徒たちが必要だ。宣教の最前線にはもっと多くの祈りが必要だ。

（香山洋人）